

# ITU活動から学んだこと —総務大臣賞を受賞して—

公益社団法人移動通信基盤整備協会 監事 元KDDI株式会社 常勤顧問 水池 健



この度、世界情報社会・電気通信日に当たり、総務大臣賞を頂いたことは、身に余る光栄であり、厚く御礼申し上げます。これまでのITU活動は、国内外の多くの関係者の皆様と共に活動する機会に恵まれ、多大なるご支援をいただいたお陰で成し得たものばかりであり、心より感謝しております。

## 1. 新しい衛星通信方式をめぐる議論

ITU-Rでは、1990年代後半から2000年代初頭にかけて、IMTとともに低軌道周回衛星や測位衛星の実用化が進み、重要な大型案件が次々と扱われました。この時期にStudy Group副議長とWorking Party議長として、重要案件の審議や取りまとめを担当することになったのは、実に幸運でした。特に、低軌道周回衛星は従来の静止軌道の衛星と特性が全く異なることから、運用条件や種々の規定を全て新しく整備する必要がありました。測位衛星もGPSに加えて我が国の準天頂衛星や欧州の方式の開発が進み、安定運用を保証するための標準や規定が多く必要とされました。新勧告を整備するだけでなく、周波数の追加分配が次々とWRCの議題となりました。その準備のためのCPMレポート案と関連する勧告の作成が議長を担当したWorking Partyの主たる活動となりました。新しい技術に関わる難しい課題が多く、研究者出身の身にとって実に興味深いものでした。常に位置が変化する周回衛星や移動しながら使用する地上端末など複雑な条件下で、電波天文や地上業務のような他の無線業務と干渉を避けつつ運用する条件を定めることは、難しい問題でした。隣接帯域の他の無線業務と共存する条件を新たに整備することも重要課題となりました。前例のない多くの課題について議論が続き、新勧告が順次作られました。今では飛行機の中でインターネットを利用することは当たり前になりましたが、その運用条件を新勧告に整備したこともその例の一つです。当時の取組みが今日実用化されていることは感無量です。

## 2. 合意形成の難しさ

これらの案件のCPMレポート案や関連勧告を取りまとめることは、技術的な難度が高いだけでなく、様々な立場

の国や参加者の合意を得る上でも極めて難しい作業でした。新しい技術や方式を実用化したい推進派の国や機関と既存の無線業務を保護したい国や機関の間では、新たな無線業務の周波数分配をめぐる対立が激化しました。さらに、周波数の共用条件あるいは運用の手続きや規定が、個別のシステムの利害に直結することが多くなり、合意形成を難しくしました。次のWRCまでの限られた期間に、議題を解決する案をCPMレポート案に取りまとめ、その根拠を新勧告として整備することは容易ではなく、Working Partyを預かる議長として大いにプレッシャーを感じました。互いに譲らない厳しい議論が続き、夜遅くや週末までドラフティング会合を繰り返したことは一度や二度ではありませんでした。

## 3. 信頼関係が導く解決の糸口

このような数多くの対立案件について、何らかの解決策を見出すことができたのは、全て議論に関わる参加者の英知と協力のお陰でした。多数決を避けて、結論を求めるITUの場では、反対者がいなくなる合意案を如何に見出すかが最も重要です。ここで学んだのは、理屈の正否だけでなく公平で納得性の高い案が必須であること、専門家同士の信頼関係が合意形成に欠かせないことでした。“To make everyone equally unhappy”という策はよく聞かされましたが、事はそれほど簡単ではないと感じました。論理的に正しいと（議長には）思われる案でも、譲る側にメンツも含めて折り合える要素がないと合意には達しません。そのような時に、思わぬ助け舟を出してくれる参加者が現れることもありました。主張の隔たりがいかに大きくても、議論を通じて専門家同士の相互理解は進みます。その結果、新たな妥協案を提案してくれるボランティアも出てきました。議長にとって、これ程ありがたいことはなく、これを軸に合意を形成できたことが何度かありました。公平に努め、誠意を持って事に当たると、議長の方だけでは結論を見出せない案件に、参加者が協力して解決の糸口を与えてくれたのです。激しい意見の対立の中でも、専門家同士で醸成される信頼関係が合意形成の基盤となることを実感しました。コーヒープレイクの間には、新たな解決案を持ち



出してくれた参加者は神々しくも見えたものです。

ITU-Rでは、国内外の多くの専門家に支えられ、人と人との連携や信頼関係のお陰で長く活動を継続できました。今回の受賞を伝え聞いた海外の知人からお祝いメールを頂くなど、当時の友好関係は今なお続いています。図の拙い油絵は、会合の期間中東の間の週末に訪れたジュネーブ旧市街の街角の光景を描いたものです。偶然ここで他国の会合参加者に会い、会議場とは全く異なる寛いだ表情に互いに驚いて、談笑したことが思い出されます。現在も、日本からは数多くの議長や副議長がITUで活躍しております。日本は良識的な専門家が役職者として真摯に活

動に貢献してくれると海外から高く評価されております。現役の役職者や参加者の支援さらに後継者の育成を通じて、総務大臣賞受賞のお返しを少しでもできるように引き続き努めたいと思います。

#### 略語

ITU：国際電気通信連合

ITU-R：国際電気通信連合 無線通信部門

IMT：International Mobile Telecommunications

GPS：Global Positioning System

WRC：World Radiocommunication Conference

CPM：Conference Preparatory Meeting



■ 図. 「ジュネーブ旧市街」 油彩 F20号 2003年